

北九州 P C B 処理事業について

「第 42 回北九州市 P C B 処理監視会議」を、令和元年 7 月 29 日に開催しましたので報告します。

1 北九州 P C B 廃棄物処理施設の操業状況等

(1) P C B 廃棄物処理の進捗状況（平成 16 年度～令和元年 6 月末）

事業エリア		北九州事業エリア	拡大受入分		
			東京事業エリア	豊田事業エリア (変圧器＝車載)	大阪事業エリア
項 目					
変 圧 器	処理台数①	2,703 台	—	98 台	—
	処理期限: (H31.3.31)	登録台数② (処理対象台数)	—	98 台	—
	処理率 ①/②	100 %	—	100 %	—
コンデンサー	処理台数①	52,025 台	6,925 台	—	—
	処理期限: (H31.3.31)	登録台数② (処理対象台数)	6,925 台	—	—
	処理率 ①/②	100 %	100 %	—	—
安定器及び汚染物等	処理台数①	3,193 t	—	1,179 t	1,151 t
	処理期限: (H34.3.31)	登録台数② (処理対象重量)	—	2,549 t	3,246 t
	処理率 ①/②	97.3 %	—	46.3 %	35.5 %

(2) 環境モニタリングの結果（平成 30 年度「冬季」、令和元年度「春季」実施分）資料 1

P C B 廃棄物処理施設の周辺環境及び排出源で、環境モニタリングを実施したところ、全ての項目において環境基準等に適合。

(3) トラブル事象等 資料 2

平成 31 年 2 月から令和元年 6 月末までの期間において、P C B 廃棄物処理施設で発生したトラブル事象は 3 件。ヒヤリハット事例は、実体験が 11 件、仮想が 168 件（平成 30 年 7 月から令和元年 6 月末まで）。全ての事象・事例への対応措置済み。

2 北九州 P C B 処理事業所第 1 期施設の解体撤去の状況等 資料 3

(1) 作業の進捗状況

先行工事対象設備（グローブボックス）内の機器の解体撤去に着手（令和元年 6 月 17 日）。現在、設備内の P C B 状況調査、付着している P C B の低減作業を行っており計画どおり進捗。

(2) 周辺環境への配慮

対象設備への出入口にはグリーンハウスを設置し、負圧管理を実施しながら P C B 拡散を防止。オンラインモニタリングに加え、近接場所の排気測定も実施し、基準値以下であることを確認。

(3) 作業者の安全衛生管理

作業者の入構時の安全教育をはじめ、保護具等の着用の徹底を行うとともに、作業場所の環境測定を実施して基準値以下であることを確認。

(4) 地元への情報提供

解体撤去の進捗状況を地元住民に対してきめ細かく情報を提供していくため、説明会や見学会を開催するとともに、事業所だよりの臨時版発行や事業所内に解体撤去特設コーナーを設置。

3 北九州PCB廃棄物処理事業の中間総括 資料4

(1) 事業の安全性について

JESCO、国、北九州市の三者における安全確保体制により、現在、安全性を担保（北九州事業所のトラブル発生件数は全事業所の中で最も低い水準）。

(2) 期限内処理について

- 安定器、汚染物等は、自治体による掘り起こし調査の進捗等により、処理対象物の量が増加している。
- このため、北九州PCB処理事業所における現時点の処理計画上、北九州事業地域のものは計画どおり令和3年度末までに処理が完了する見込みであるが、大阪事業地域及び豊田事業地域のものは、令和3年度末までに処理が完了しない可能性が生じている。

年度	(計画的処理完了期限) ⇒									参考
	処理実績 (単位: ト)						処理計画 (単位: ト)			
	H21~25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	
北九州事業地域	1,425	671	331	145	177	117	111	43	0	0
大阪・豊田事業地域	0	0	145	594	548	710	702	1,007	1,160	249

- 今後、掘り起こし調査のさらなる進捗等により、処理対象物の量がさらに増加する可能性があるが、現在、北九州PCB処理事業所の処理能力の向上に取り組んでいる。
- 今後も、制度改正などあらゆる措置を講じて、「令和3年度末までに、かつ、その期間内で一日でも早く処理完了させることを旨として、関係者が総力を挙げて早期に処理を行う」べく全力で地元との約束を果たしていく。

4 監視委員の主な意見

- 環境モニタリングにおいて、水銀の測定値が基準値内であるが少し上昇傾向にある。対策を検討しているということだが、水銀の発生元などの根本的な原因も特定しておくように。
- 軽微ではあるがピンホールによるトラブル事象が続いている。ピンホールを軽く捉えないことが大切。定期的な点検はなされているが、地域の不安がないように安全対策をお願いする。
- 全国で初めて実施する解体撤去作業は大変な作業である。操業時と同様に、緊張感を持って安全管理を徹底して作業にあたってもらいたい。
- 国においては、「安定器等については令和3年度末までに処理を完了」、「いかなる理由があろうとも処理期間の再延長は行わない」という地元との約束を果たすため、しっかりと対処すべき。

5 本市の対応

国、JESCOに対して、引き続き安全性確保に万全を期すこと、及び北九州PCB処理事業所の更なる処理能力の向上を要請し、あらゆる手段を尽くして地元との約束である期限内処理を実行するよう強く申し入れていく。

(以上)